



TITLE:

上海事變を通じて見たる日支關係

AUTHOR(S):

作田, 莊一

CITATION:

作田, 莊一. 上海事變を通じて見たる日支關係. 經濟論叢 1932, 34(4): 689-704

ISSUE DATE:

1932-04-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130168>

RIGHT:

十ノハ、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

(禁 轉 載)

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號 四 第

卷四十三第

行發日一月四年七和昭

論 叢

動的資本と課税

法學博士 神戸 正雄

社會理念とイデオロギー及びミースト

文學博士 米田 庄太郎

マルクスに於ける精神科學的方法

經濟學博士 石川 興二

時 論

上海事變を通じて見たる日支關係

經濟學博士 作田 莊一

研 究

大量觀察に於ける理論と技術

經濟學士 蜷 川 虎三

國勢調査の性質に就て

經濟學士 岡 崎 文規

燒津鯉漁業に於ける船仲組織

經濟學士 岡 本 清造

アルフレッドの工業集積理論について

經濟學士 菊 田 太郎

說 苑

經濟學と經營學との境界線に就て

經濟學士 谷 口 吉彦

東海道濱松宿に於ける人馬遣ひ方について

經濟學士 大 山 敷太郎

デイーチエルの公債論

經濟學士 鹽 見 眞澄

附 錄

新着外國經濟雜誌主要論題

上海事變を通じて見たる日支關係

作 田 莊 一

一

支那の排日運動は是まで數々行はれたるが、現在の上海事變を惹起したる抗日運動は今までにない深刻なるものであると同時に、その本質的なものを漸く明るみに現はして來た。この事變は昨年高潮に達したる滿洲問題を機縁として一月二十八日に爆發した。その後我が忠勇なる軍隊の献身的努力によつて現地保護の目的を達したるが、抗日の形勢は緩和されず、否今後一層惡化するのではないかと疑はれる。我等はこの事變を通じて日支關係の真相を觀察し、今後の對策を考慮しなければならぬ。

支那の排外運動が孰れの國民に對して最も強く當つて來るかと云へば、それは支那に發生せる種々の社會的勢力に向つて最も強く對立する國民でなければならぬ。最近に於てその排外運

動の正面に立つものは日本である。

現在支那の排外的勢力は一通りでなく、これを分類すれば略ぼ、民族主義、國家主義、資本主義及び共產主義の四つとなる。英佛の如く早く近代國家及び國民經濟を建設したる所では、種々の行動主義が順次に發展し、短年月に發展を遂げたる我國でも其等が縮圖的に現はれてゐる。然るに支那では、其等の四主義が一も成熟するに及ばない間に、次々と新しいものが現はれて、雜然と併び存立する有様である。

第一の民族主義は倒滿興漢の民國革命によつて表面に現はれた。孰れの民族にも自尊心があるが、自尊心と自卑心とを辯證法的に發展せしめて國民文化を造り出した日本民族と異り、漢民族は優秀なる古代文化を創造しながら而かも滅亡を免れたる稀有の民族として、これまで常に自尊心を推通はす特質を有する。その漢民族が近代に入りて、東洋民族に對し格段の自尊心を懷く西洋諸民族並に古來未だ無きほどに自尊心を強めたる日本民族と對立するに至つた。歐米及び日本が支那に對し優越的態度を執ることは支那の民族主義をして反抗的に高調せしめずには置かない。

第二に支那では新しく民族を基礎とする近代國家の建設が始まつた。近代國家は國境及び國籍を明確にし中央集權を確立して社會の上に築かれる所の強制組織の共同體であるが、漢民族の傳統とする團體生活は粗放的統一に甘んずる社會生活であつたから、そこでは近代國家の建設が容易に進捗しない。かくて東洋諸國に課せられた主權制限が獨り支那にあつては、治外法權・關稅權

制限・租界及び租借地の設定・外國軍隊の駐屯・外國軍艦の内河碇泊から居留民現地保護の爲の出兵に至るまで今尚ほ存續してゐる。而して支那では内の國家性が弱く、近代國家の建設は他の近代國家の壓迫から所動的に出發したのであるから、支那人民の國家主義は内を堅めることよりも先づ外部に對し主權制限を撤廢する國權回復に力を注いでゐる。帝國主義打倒の叫びは支那に於て最も高い聲である。

第三は資本主義である。諸國の帝國主義は近代的意義に於ては資本主義的進出と見られてゐる。支那も近代資本主義が發展しない間は外國帝國主義の壓迫を甚しい苦痛とは感じなかつたが、それが成長するにつれて外國資本主義と實質的に對立して來た。支那には早くより官吏資本とも云ふべき特有の資本が榮えてゐたが、これが土地資本・貸付資本及び商業資本と合體し、主流としては商業資本時代を續けて來た。然るに近時は貿易及び移民送金によつて資本の蓄積が大となり、特に生産力の豊かなる南方支那に於て著しく、それが外國の資本的商品に刺激されるに及んで工業資本として働き出した。世界大戰は更に資本主義に躍進の好機を與へ、代表的工業たる上海の紡績業に就て見るに、千九百十三年末の鍾數五十萬四千が千九百二十九年秋には二百萬に上つてゐる。その他に綿絹の織物は勿論として、製粉・豆油・製材・製紙・皮革・砂糖・石鹼・洋灰・硝子・印刷機・自轉車・ラヂオ機・ディゼル發動機等に亘り新式織機製作に至るまで近代工場工業の大部分が發起されてゐる。支那は尚ほ商業資本時代なるか將た已に近代資本制に到達せるかに就ては、種

々議論が闘はされてゐる。八割の農業人口を有しながら尙ほ食料品を輸入する支那の國民經濟が近代資本主義機構を具へてゐないことは言ふまでもない。しかし同時に又外國の資本的進出に面接せる開港地方に於て工業資本が急速に成長しつつあることも疑ない。それは成長しつつあるから、これと對立する外國の資本主義に抵抗して自己を伸張する必至の勢あることは自ら明かである。かかる工業資本の發展期に於てこれを助長するものは保護關稅であるが、支那ではそれが出來なかつた。そこでこれに代るものとしてボーイcottが度々用ゐられた。日本の燐寸輸出が撃退されたるが如きはその一著例である。

第四は共產主義である。支那では資本主義が漸く成長期に入つた頃から早くもこれを打破しようとする共產主義運動が起り、今ではロシヤ以外では諸國中最も勢力ある運動となつて來た。千九百二十七年七月に國民黨から分立し十二月に廣東に革命暴動を起した中國共產黨は、種々の曲折を経て昨年十一月江西省瑞金に於て中華ソヴィエツト共和國政府を樹立した。最近にこの共產黨は江西・福建・湖南・湖北等十一省に亘つて三百餘縣を收め九千萬の大衆を包容してゐると言はれる。資本主義の成熟を待たないで共產主義組織の建設があり得るかは疑問であり、殊に周密なる國家統制の經歷なき支那に於ては更に疑はしい。されどそれはマルクス理論に據る場合であり、資本主義未熟のロシヤにはロシヤ式共產革命が行はれたことを思へば、資本主義及び國家統制共に不足せる支那であつても支那式共產主義が發展しないとは云へない。それはマルクスの呪文を

唱へながらマルクスの内容を具へないまでである。暴政の下に悩む大衆を土臺として政府顛覆を謀ることは支那歴史の定石である。共產黨の場合には、今世界的に廣まつてゐる有力なる理論が黨の指導者を躍らしめ、背後にはせめて支那だけにでも成功せしめたいと努力してゐるロシヤの實援あるに顧みるならば、近代工業を充實せしめる國家經營統制に成功するや否やは疑問とするも、農民を地主から解放し開港地の工業經營を黨政府に掌握する程度のことは必しも不可能ではあるまい。又幾分想像を加へるならば、四千年以來堅固な國家を建設し得なかつた漢民族が、或は今の世界交通の時代に際會し且つ共產主義の實現を機會として、新たにアジア大陸に強大なる國家を打建てることにならないとも限らない。その豫想は孰れにしても唯だ争ひ難い事實は、中國共產黨が紊れたる内政と迫り来る外國資本主義とに面して次第に勢力を加へつたと云ふ點である。資本主義者は互に争ひながら又妥協する。資本主義に對する共產主義は決して妥協しない。中國共產黨は國內の資本主義及び民主主義に對抗すると同等以上に外國の資本主義及び帝國主義に反抗する。

以上舉げたる四つの行動主義が今支那にあつては孰れも未熟のままに同時に旗幟を並べて前進しつつある。民族主義と國家主義とは合致して對外的に發動する。資本主義と共產主義とは氷炭相容れないけれど、對外的には共に外國の資本主義及び帝國主義に對抗し且つ民族國家主義に結付けられて共同戦線に立つことを辭しない。斯くて支那に於ける四つの主義が相伴ふて對外排斥

の態度に出ることとなるが、その排斥を向けられる國民の中でも四つの主義を悉く集注せしめる標的となれものは我が日本である。

二

支那の苦力は歐米人に殴られるときは隱忍しても、それが日本人であるときは反抗する。日本人が支那人に對し優越的態度を執ることは彼等の民族的自尊心を甚しく傷ける。これは歴史が傳へたる感情であるから容易に變らない。又日本は支那と近接し、日本の國家的強大は國家組織の脆弱なる支那にとつて多大の脅威を感じしめる。曾て李鴻章は滿洲をロシヤに與へても日本には與へまい考へその政策を執つた。支那が近代國家の建設に臨んで民衆の國家意識を強めようとすると當つては、これを民族意識に訴へることを最も有效と考へ、國權回復の運動に於ては主たる目標を日本に置いた。これが徹底せる排日教育の施設となつて十數年間廣く行はれて來た。

支那の資本主義の成長に對して最も強く排斥さるべき相手方はまた日本である。對支貿易に於てイギリスは急速に退歩しこれに代つたものはアメリカであるが（支那への輸入に於て一九〇〇年より一九二九年の三十年間にイギリスは四割五分に減じアメリカは二十三割に増した）、アメリカの供給商品は支那にとつての必要輸入品が多いから排斥され難い。然るに日本の對支供給は前掲の三十年間に二十割に増したが、是等は多く輕工業品にて支那の資本企業が發展するに従つて

支那の便宜輸入品となり、次第にボイコットさるべき運命を持つ。その上に日本は上海その他に紡績業を初め種々の輕工業を經營してゐる。上海に於ける日本人の紡績業は支那の七十四工場、二百〇八萬餘鍾に對し四十三工場、百五十八萬餘鍾に及んでゐる（一九三一年末調）。他種の工業は先きに支那の工業資本に就て言へる種目と殆ど同様であり、それらは殆ど凡て成長しつつある支那工業資本と對立する。日本の對支輸出及び在支企業は支那の新興資本主義の正面の障礙物であり、殊に厚い國家保護に頼り得ない支那資本主義にとつては、排日運動が非合法的方法にまで脱線する。

終に支那の共產主義者の外國資本主義及び帝國主義に對抗する方向の中、最も鋭い鋒先を向ける所は支那に強く働きかける日英である。中國共產黨の背後にロシヤが潜在する所からもそう見られる。その中、イギリスの立場は寧ろ保守的であり、印度を顧みながら支那と應酬する有様である。然るに日本の資本主義者は國軍を以てしても支那への進出を擁護してもらへると考へ、在支居留民の保護と對支資本主義進出の保護とを混同し、日本政府の政策もまた同様の混同をなし居るやの疑がある。かゝる政策は支那の共產主義者に極めて強い刺戟を與へ、打倒日本帝國主義の意向を無反省に堅持せしめる。

斯の如く支那の排外運動を構成する四つの主義は打揃つて日本に對し最も尖鋭化せる一團の國民的運動となつてゐる。上海に於て鎧袖一觸すれば退却すると思はれた支那軍が意外に強い抵抗

を續けたと云ふことは、無論軍事的見地から説明され得ようが、その外に支那國民の排日心の強い點をも可なり多く計算に入れなければならぬ。民族主義と國家民主主義とが先陣に立ち、資本主義が後陣に控へ、更に譬喩的に言へば共產主義が散兵的に加勢してゐる。この最後のものは何時かは密集部隊となつて先陣に突き出るかも知れない。

アメリカは資本主義國の最大選手であるが、今の所支那に對してはその必要輸入品を供給して支那の資本主義を刺激せず却つて歡迎されてゐる。對支投資も貧弱なる日本の對外投資が九六・四%を支那及び滿洲に向け居れるに比べ、巨大なる投資力を有するアメリカは對外投資の中支那への分は僅かに〇・八%に過ぎない。曾て政治的特權を主張せず、今は新興資本主義の引立役となるアメリカは自ら支那の後見人たる態度を持してゐる。對支經濟關係が日米關係を疎隔せしめると見られるが、その疎隔はまた支那の抗日態度を硬化せしめる。

三

列國は久しい間支那に對し帝國主義的進出を續け、やがては支那を分割略取するであらうと言はれる。支那人はそれを深く憂へ強く憤り、幾多の志士は亡國を嘆き救國を叫んでゐる。而して現在に於て日本はその支那征略の先頭に立つと支那人は考へてゐる。そこから排日教育が熱心に實行されて來た。事態は果して斯くなるであらうか。

數十年前に支那分割の聲が高かつたが、今日又支那は分割の危險に際會すると言ふものが少ない。舊時の分割論は領土分割であつた。清末の國勢衰頹せる頃、列國の勢力範圍の設定が領土分割に進展する危險を示した。その時常に分割反對の政策を執つたものは日本であり、當時日本は微弱ながらも地勢上最も強い發言權を有してゐた。今日の支那は國民意識が強くなつて來たら自力を以て分割を防止し得る。但だ今度の滿州國獨立に就では、これを日本の滿洲併呑の假裝と見て領土分割の一端となすものもあらう。滿洲に日本の經濟的勢力が伸び行くことは間違ない。これは自然法則が命ずる所の世界富源の調整分割であり、支那はこの法則に逆行して滿洲を失ふに至つたのである。故に日本の滿洲進出に對しては巨大の富源を擁する露英米佛が明らかに反對しない。これが領土分割論の行はれた舊時であつたならば、列國は、彼、滿洲を取らば我、何地方を取らんと騒ぎ出すであらう。舊式の大國的領土侵略と世界經濟成立以後に於ける世界富源の調整分割との相違が解らないでは致方がない。

近時の支那分割論は、領土の分割ではなく、列國の支那への資本主義的進出が支那の富を分取りするにあると見る。これはレーニンの謂ゆる資本主義の最後の階段としての帝國主義を指す。列國は支那に對し、資本的商品輸出に努め、商品賣込の代價を融通し、支那に企業を試み支那の企業に参加しつゝある。これらは植民地に對して行はれるものであるから、支那は列強の半植民地となつて、資本主義的に分割されると言はれる。果して然るか。

先づ貿易に就て述べる。今日の國際生産組織は、國民の間に生産手段の自由移轉行はれず、各國民が固有する生産手段を以てする産物の交換が行はれる所の各別生産分業である。従つてその限りでは國際貿易には交換は双方を利すると云ふ原理が通用し、たとへ交換利益の分配が幾分偏るとしても―それは貿易價格によつて決まるが―貿易その事は一國民が他國民を略取することゝはならぬ。日支貿易が如何に發展しようと、それは日本が支那を略取するものでなく支那の方から同様である。否寧ろ支那から日本に輸出する原始産物は無代價の富源剩餘をも含む商品であり、それには又供給競争が少ないから價格の引下を強要されない。然るに日本から支那へ輸出する加工製品は勞働剩餘を主とする商品であり且つ歐米及び支那製品と烈しい競争によつて價格引下を強要される。かくて日支貿易の利益分配は支那に多く日本に少ない。この日本側の不利益は勞働剩餘を造出す日本の勞働者の負擔であり、反對の利益を受けるものは資本家の外には廉價なる加工品を買取る支那の消費者である。然るに萬民貿易あるを知つて國際貿易あることを知らない人々は、唯だ資本主義は勞働剩餘を略取すると云ふ理論のみに據つて、支那に資本的商品を賣込むことは支那の民衆を略取すると云ふ錯覺に陷るのである。

原料を買つて製品を賣る所の對支貿易は日本國民にとつて決して大なる利益を齎さない。然るにそれに従事する所以は、輸出によつて對外購買資力を獲得し、これを以て原料其他の必要輸入の代價に充てる必要があり、又對支輸出の減退は産業の衰頹及び失業の増加を來たすからであ

る。かゝる意味に於ける對支輸出をさへ尙ほ日本の帝國主義行動であると云ふ日本人がある。支那の青年達が日本の商品を收奪し燒棄して打倒日本帝國主義の實行と速斷するは無理からぬやうでもある。併し國際分配利益を拋棄して帝國主義侵略に酬めると考へるのは、自分の所有物を擲げつけて相手の強奪に酬めたと考へるやうなものである。經濟學を知らぬ一部支那人の盲動から、我等は平時に勞働者の苦汗の凝結を捧げる上に、更に爆彈三勇士を以て象徵する軍隊の鮮血をも犠牲としなければならなかつた。

斯の如く貿易が全く任意に行はれる場合は、勿論兩當事者を利するが、それが強要される場合にも一方が價格を強制的に決めない限りは、強要する者が侵略するとは言へない。交易はもと人の本能から來ないで利害の認識から來る。交易に慣れない人々は多くは強要されて澁々參加するが、それで交易の利益を受けることに變りはない。我國は歐米から交易を強要されて國を開いたが、それでも我國はやはり利益を受けてゐる。今日本が租界其他の商業的特權を有して對支貿易を行ふことを一種の交易強要と見倣しても、それは資本主義的に支那の富を略取することゝはならない。但だ支那の關稅權を拘束する場合は事情が異つて來る。この場合にも關稅引上を抑へて供給價格を低位に置くことは、支那の消費者の利益となるも商品輸出國には格段の利益を加へる譯ではない。されどこの關稅拘束が支那の産業の進歩を阻止することは疑なく、未熟産業の振興は如何なる國民にあつても必然且當然のことであるから、その國產振興を妨害してまでも貿易を

強要するは消極的な侵略である。かくて我國は列國の中にて最も不利を蒙る立場なるにも拘らず率先して支那關稅自主權の承認を唱へ、それも已に實現され、僅か三年間の協定稅率も昭和八年五月には滿期となるはずである。

斯の如く日本は支那から貿易の故を以て何等の反抗を受ける理由はない。たとへ我より彼に貿易を強要しても彼を害する譯ではない。それと反對に支那から日本との貿易を抑止し妨害することとは支那自身の利益を拋棄することはともかく、我國の貿易上の利益を奪ひ去るものである。而もその貿易の抵制は最近には武力行使に等しい方法を以て行はれたが、これは明かに一種の敵對行動である。上海事變が起つたことは決して單なる國民感情の衝突ではない。

我國の對支貿易に就て言へる所は又他國のそれにも通用する。諸國が支那に工業品を供給することは支那の富を略取する所以でない。諸國の商品が競つて支那の市面に進入するとき、恰も支那の富を分捕するかのやうに考へられるが、それは輸出國の資本家が販賣代金を收めることを斯く考へる所の重商主義的錯覺である。事實はその反對にて、支那は諸國の競争により低廉なる輸入價格を以て有利に國民の富を調へ得る。この輸入代價は富源剩餘を含む輸出品代價と移民送金とにて償はれる。支那は開國以來絶えず輸入超過を續け居るが、日本の如く正貨補充の爲に外債募集に苦しむことなく、對外收支は自然に調節されてゐる。支那國民經濟の困窮は外國の押賣的商品供給に苦しめられるからではなく、地大物博を誇りながら而かも防穀令を布き外米を輸入す

るが如き農業不振の致す所であり、それは又國民經濟の意志性の缺乏から來てゐる。

四

次に投資に就て述べよう。曾て支那への投資の主なる用途は鐵道建設を初めとし、その他の鑛山・水利等の富源開發事業であつた。富源開發の爲に外資を入れることは、米露等に見たる如く産業幼稚の時代の通例である。かゝる資本は多く固定資財の輸入代價に充てられ、この代價たる元本及びこれに對する利益分配は暫くは國民經濟の負擔となるが、やがて富源開發の産業が進むときは富源剩餘を以て負擔を償却し得る。資本金得だけは外國に取去られるも、その部分は自國に與へられたる無代價の富源剩餘にて補はれる。ルロア・ポリューは、支那の開發は基督教宣教師を送るのではなく鐵道建設資金を送るべきであると言つた。アメリカはイギリスから、ロシヤはフランスから資本を入れたが、投資國から政治的に壓迫されず、經濟的に困窮を嘗めなかつた。今でもロシヤは外資を待望し受容れてゐる。支那はそれらの先蹤に倣はず外資利用には成功して居ない。支那の場合には罪は資本になく、寧ろ資本を用ゆる能力の缺乏にある。支那が外國資本を入れた所で、それが凡て外國に支那の富を貢獻することゝはならない。

然らば支那には外國資本によつて略取される事實はないかと云ふに、次の一事は見逃がし難い。それは支那の開港地方に於ける紡績業その他の外人資本企業が支那の勞働者を雇用する場合である。上海に於ける日本人の紡績業の如きも投資一億圓以上になつてゐる。これは輸出貿易の延長

であるが、性質はそれと異り、外國資本を以て支那労働者を略取するものと言へる。併しこの場合にも支那國民が損害を受けてゐると云ふ譯ではない。支那はこれまで産業と人口との不均衡の故に幾百萬を越ゆる多數の華僑を外國に送出し、その送金にて對外收支の均衡を得てゐる。これと同様に支那にて近代工業が進歩しなかつたことが租界に於ける外國人企業に労働者を供給するに至つたのであり、外國人企業は支那の過剰労働力を吸収したまでである。故に支那が略取を脱しようとするれば、唯だ經濟的に自國の工業を盛んならしめ外國人企業から労働力を回收すればよい。又それは事實から言つても支那の資本主義と共產主義との孰れが發展するとしても、今後支那の労働力を利用する外國人企業は、過去のイギリス人企業が例を示すが如く、伸張は勿論維持すらも困難となるであらう。支那に於ける外國人企業は、今までの所では過剰人口を養ひ、今後は支那に或意味で還付されるものであるから、支那側では何にも昂奮して打倒を叫ぶほどのものでなく、泥んや支那を資本主義的に分割するなど云ふべき性質のものでは尙更ない。

更に日本の立場から見ると、支那に於ける邦人企業は滿洲に於けるものと全く性質を異にする。滿洲の企業は我國の富源生産力の不足から起る所の原始産業が主となつてゐる。これなくしては我が國民經濟は必然に窮迫する外はない。滿洲の企業の保護は物質的生産力の擁護であつて、これは我が國軍を以て守らなければならぬ。従つてその企業形式が資本主義的に經營せられるや否やも本質的には重要な問題とはならない。然るに上海方面の在外企業は資本企業なるが

故に存立し得る。我國でも勞働力は過剩であるから、何にも支那の勞働者を雇用する必要はない。故に若し我國の生産組織が變るならば、對支輸出は依然として行はれてもその延長たる在支企業は自ら消滅する譯である。今我國家が在支企業を保護するは對外購買資力を保護するのである。滿洲の物質的生産力に就ては今の所他に代るべきものがないが、對外購買資力とならば必しも限定的のものでない。我國でも滿洲の鐵道業や、鑛山業の保護と上海の紡績業の保護とを同様な國家的保護と見るものがあるかも知れない。支那側でもこれらの二つを共に日本の資本的帝國主義の進出と見て一樣に排斥するであらう。併しそれらは皆、色盲的認識である。

五

支那は決して列國の半植地でない。恐らく如何なる意味に於ても支那は分割されることはあるまい。唯だ今後の支那が資本主義と共產主義との孰れに向つて成長し行くかは、今の所豫斷を許さない。我國としてはそれが孰れであつても大なる誤謬を犯さないやうに豫め對策を考慮し置かなければならぬ。殊に上海事變以後の兩國の國民感情は容易に融和しないであらうと云ふ安全なる前提の下に。

支那に於て資本主義が益々發展し行くなれば——殊にそれがアメリカの財力を後援とするならば——日支兩國民の資本主義的競争は段々烈しくなるであらう。昭和八年五月日支關稅協定が滿期となれる以後に於ては、過度と思はれるほどの保護關稅政策が支那政府の極めて必要と感ずる財政

關稅と結付いて、合法的な日貨排斥が行はれるであらう。而してこれに應へる方策は唯だ我が輸出産業部門の改造でなければならぬ。

それと事情を異にし、若し中國共產黨が勢力を加へ全國に號令するやうになるならば、それは國際政治經濟に甚しい混亂を捲き起こすであらう。中國共產黨はモスコウの流を汲むとはいへ、それは結局支那流に發展するであらうから、それが如何なる内容を有するかは今から見定めることは出来ない。但しそれが苟も共產黨である限りは、今資本主義を以て支那に臨む諸國に對し、ロシヤが執つた態度に類するものがあるだらうことは推察するに難くない。その際列國が支那の激昂せる共產黨衆からロツクアウトされることあらば、我國は如何なる態度に出づべきか。今日日本の立場に對し好意を寄する國は一もない。經濟上の國情を等しくするドイツでさへも、輿論は我國に對して反感を示す。その列國が若しも曾ての北清事變に於けるやうな役割を我國に求めたとするならば如何にすべきか。我國民の中に見出される二種の色盲患者の中、一種のものは列國と共に支那の赤化を強壓せよと言ひ、他種のものにはロシヤから支那に續く赤色線に合流し奉仕せよと言ふであらう。正しい道はその孰れでもない。

總體としての日本國民は今や活眼を開いて新時代に進み入りつつある。對立せる二つの唯物主義を止揚して元始の一體性を更新することが新日本の使命である。この態度さへ確實であるならば、明日の支那がどのやうに變轉しようとも我國にとつて何等の不安もなく、我は悦んで彼の成長を祝福するであらう。